

## 2018年度 同志社大学大学院 司法研究科

### 後期日程入学試験問題 法律科目試験

#### (民法)

次の(設例)を読んで、問(1)から(3)に答えなさい。すべて現行規定(貸与六法543頁以下)に基づいて解答すること。

#### (設例)

1. Aは、土地甲を所有していたが、特に利用せず遊休地にしていた。2016年4月ころ、Aのもとを訪れたBが、土地甲の購入を考えているので、事前に不等沈下しないかを調査したいと述べた。Aは、土地甲を手放してもよいと考えていたので、Bの申し出に応じ、調査を許可した。後日、再びAのもとを訪れたBは、偽造した土地甲の調査結果書を示して「土地甲は不等沈下することがわかった。これでは売り物にならないから、通常800万円程度だが、私はこの土地を是非所有したいので、倍の1600万円出すが、売ってくれないか」と話した。
2. 土地甲は実際には、2016年当時、3000万円程度の価値を有していたが、Aは、不等沈下するとの調査結果に驚き、Bの申し出を不審に思うこともなく、土地甲をBに売却することに決め、2016年4月10日、Bとの間で、代金1600万円で売却する旨の売買契約書を作成し、代金の支払を受け、同日土地甲の登記をBに移転した。
3. 2016年6月ころ、Aが、友人に上記売買のことを話したところ、友人から「あの辺の土地は不等沈下なんかしない、だまされたんじゃないのか」と聞いたため、あわてたAはあらためて土地甲の調査を業者に依頼したところ、不等沈下の事実はないことがわかった。そこで、Aは、内容証明郵便で、Bに「土地甲の売買契約を取りやめたい。代金を返金するので、土地甲を返して欲しい」と記載して送り、これは同月25日にBのもとに届いた。
4. その後、Bから連絡がないのを不審に思ったAが、同年8月ころ、B宅を訪れ、Bを問いつめたところ、Bは「土地甲は2016年7月10日に、Cに売却して、登記も移転した。Cと話し合いをして欲しい」と述べたので、Aが調べたところ、土地甲の登記名義は同年7月10日にCに移転していた。AがCに、C名義の登記を抹消して欲しいと述べたところ、Cは「契約前に、Bから、Aがだまされて土地甲を売却したと文句を言っているから早く登記まで済ませた方がいいと聞いていた。土地甲を返すつもりはない」と述べた。
5. 2016年8月末ころ、Cは予定通り、建築会社であるD社に依頼して、土地甲の上に自宅の建設をはじめた。建物の建築中、D社の従業員Eが、建築中の建物の2階から誤ってハンマーを落としたため、通行中のFにハンマーが当たり、Fは全治1週間の傷を負った。

2018年度 同志社大学大学院 司法研究科

後期日程入学試験問題 法律科目試験

(民法)

---

問(1) (配点: 30点)

設例の事実1～3までを前提として、AがBに送った内容証明郵便はどのような法的意義があると考えられるか簡単に指摘した上で、Aの主張が認められるためにはどのような要件を充たす必要があるか述べ、Aの主張が認められるか検討しなさい。

なお、設例の事実4以下については、考慮しなくてよい。

問(2) (配点: 40点)

設例の事実1～4までを前提として、AのCに対する請求は、どのような法的根拠に基づくものであるか指摘しなさい。

また、Aの請求は認められるかについて、理由を挙げて説明しなさい。検討にあたっては、事実4に記載するCの認識がどのような意味をもつかについても言及しなさい。

問(3) (配点: 30点)

設例の事実5で、FがD社に対して、傷の治療にかかった費用の賠償を請求する場合、この請求が認められるかについて、理由を挙げて検討しなさい。